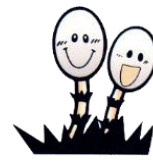


# NEWS LETTER

上越つくしの里



vol. 37

発行 (福)上越つくしの里医療福祉協会

〒943-0109 上越市北新保 55-1

TEL 025-520-3294 FAX 025-520-2582

URL <http://www.tsukushinosato.com>

MAIL [tsukushi@tsukushinosato.com](mailto:tsukushi@tsukushinosato.com)

発行人：川室 優 令和2年3月31日発行

## つくしひまわりステーション開設！

上越つくしの里医療福祉協会（以下、つくしの里）のある上越市諏訪地区では、平成22年以来、関連法人と地域が協力して、地域の活性化を目的とした「ひまわり」を咲かせる活動を行っています。つくしの里においては、ひまわりの種から油を搾る取り組みが始まった平成26年から本格的に参画しています。川室理事長から「せっかく咲かせたひまわりの種から油が搾れないか」との提案があり、長野県富士見町にある「立沢ひまわりの会」の搾油施設を視察しました。障がいのある方でも比較的取り組みやすい作業内容に、いつか上越で取り組み、障がい者の就労支援につなげたいという夢が生まれました。



平成31年2月、農林水産省の「農山漁村振興交付金」の公募について上越市福祉課から照会あり、つくしの里も検討の結果、手を挙げることにしました。関係各所からのご協力により申請作業を進め、9月に交付が決定しました。交付金は二本立となっており、①搾油施設の整備と、②ひまわり育成・搾油技術の習得や向上をめざし、合わせてひまわりオイルデザインを見直し（ブランド展開）販路を広げていく、いわゆる「6次産業化」に向けて取り組むことにしました。



令和2年2月7日、搾油施設が完工し『つくしひまわりステーション』と命名され、12日には搾油設備（焙煎機・搾油機・濾過機）が設置されました。3月27日、食用油脂製造業という食品営業許可を取得し、令和元年度に採れたひまわりの種、約500kgを、令和2年度に入り搾油していきます。搾ったオイルは、オイル単体での販売の他、地域の企業様とコラボしてオイル入りのお菓子などに生まれ変わっていきます。ブランドデザインはつくしの里利用者の皆さんに公募し、最終的にはデザイナーに作成していただきました。『ひまわり日和』と名付けられたブランドは、これから様々な商品展開の中に登場してきますので、どうぞご期待ください。

令和2年度がスタートします。立派な搾油施設が誕生し、今後はその施設が有効に有意義に活用されるよう、ひまわりの種をたくさん収穫していくという目標があります。つくしひまわりステーションや、そこから生まれた商品たちが地域の誇りとなるよう精一杯努力していく所存です。今後つくしの里の活動にご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。（田邊）



# 令和元年度活動紹介

## つくし工房・つくしワークトレーニングルーム(分場)

つくし工房では昨年より製造・販売している「オリジナルサブレ」を今年度も多数のご注文をいただき、製造しました。昨年度、ご注文をいただいた他に今年度は関連法人である高田西城病院と川室記念病院からもご依頼があり、各病院のロゴが入った「特製サブレ」を一枚一枚、丁寧に作りました。

また、サブレの他にも季節に合わせた商品を多数、製造・販売しています。今後つくし工房について広く知っていただけるようにPR活動にも力を入れ、地域の皆様との関わりを大切にしながら、日々取り組んでいきたいと思っております。(葉吹)



## 好望こまくさ・ひまわり作業所(分場)

ひまわり作業所は、青海総合福祉会館ふれあい内にあります。作業は地元企業様より請け負った軽作業を始め、ひまわり作業所オリジナルの自主製品を作って販売しています。その中でも人気の“ちょこっとタオル”は使い勝手が良いと地域の皆様より高い評価を頂いております。その他、“王冠を使った鍋敷”や“かえるの根付”、糸魚川のゆるキャラ“ジオまる”の製作もひとつひとつ手作りで行っています。また、会館内の清掃業務や糸魚川バスの定期券販売所の委託業務も受けており、地域に繋がった活動も担っております。障がいがあってもなくても一人ひとりが自分らしく生きられるよう、多様性の大切さを発信していきたいと思っております。(山本)



## つくしワークショップスペース

就労継続支援A型では、ご注文をいただいているお客様に『おいしい』と言ってもらえる安心・安全なお弁当を目指し活動しています。

就労継続支援B型では新しい作業や施設外での作業を取り入れ、利用者の方々のさらなる活躍の場と工賃アップに励んでいます。作業種目が増えたことで大変なこともあります、得意なことを生かして活動できる場面も増えました。

自立訓練では少人数でのプログラムの中、日々意見を出し合いながら活動しています。個別のプログラムも実施しそれぞれの目標に向けて少しずつ前進しています。

また、公益財団法人 真柄福祉財団様より補助金の助成を受け、配達や送迎等で使用する車を購入しました。より安全な運転を心がけ大切に使用させていただきます。(小林)



## 地域生活支援センターこまくさ

令和2年1月10日に、県立糸魚川白嶺高等学校にて、福祉系列を専攻する高校生、当事者、福祉講師・スタッフ約30名で、「ひとにやさしいまちづくり」について考えるワークショップを行いました。前半は、聴覚障がい、視覚障がい、精神障がい、肢体不自由、発達障がいの当事者より、ご自身の経験、現在の暮らしなどについてお話がありました。後半は、「災害」「コミュニケーション」「買い物」のテーマについて現状と課題を挙げ、解決するためのアイデアを出し合いました。

センターこまくさでは今後も、障がい理解についての啓発活動に取り組んでいきたいと考えています。(藤井)



## グループホームつくしの里

グループホームつくしの里では、現在6名の方が入居されています。昨年10月に発生した台風19号豪雨により、近くの関川が氾濫寸前となり、大変こわいおもいをしました。

グループホームでは、年2回の防災訓練に加え町内防災訓練にも参加し、防災意識の向上はもちろんのこと、地域の一員として、地域活動に参加していくことで、お互い顔の見える信頼関係を築いていくことが重要と考えています。(竹ノ内)



## つくしセンター

つくしセンターでは、平成23年度から、登録者が多く住む稲田地域と南新町地域で定期的なグループ活動を開催しています。2ヶ月に1回、四ヶ所会館、南三世代交流プラザをお借りして、近況を語り合い、楽しいひとときを過ごしています。

参加者は4~5人ほどで、お菓子の買い出し、座布団やお茶の準備など参加者と職員が協力しながら行い、なごやかな雰囲気の中で活動しています。毎年1月には両地域合同でお鍋を囲んでカラオケを楽しむ新年会を開催し交流を楽しんでいます。

参加者が楽しむ場ですが、つくしセンターにとっては、地域で暮らす登録者の生活状況がわかる貴重な機会でもあり、そこから相談や生活支援につながることもあります。これからも、地域で暮らす登録者の方々に身近な存在であり続けられるよう、活動を続けていきたいと考えています。(竹ノ内)



## ホームつくし糸魚川

糸魚川地域のグループホームが、平成31年4月より、「ホームつくし糸魚川」として移転新築し新たなスタートを迎えました。男性6名、女性4名へと入居定員を拡充し、ショートステイの受け入れが1名可能となっています。ショートステイは令和元年9月より受け入れを開始し、グループホームの雰囲気を感じてみたい方、ご家族から少し離れて生活してみたい方等からご利用していただいています。今後も、ご本人の希望する生活に向け、「地域での暮らしへの移行」や「より良い地域での暮らし」に寄り添い支援をしていきたいと考えています。(藤井)



## 職員紹介



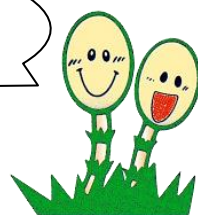
(左から)

つくし工房 目標工賃達成指導員 清水絵里香

ホームつくし糸魚川 世話人

永越かよ子 / 高柳信江 / 田中 かおり / 川合 清

よろしくお願ひします!!



# 職員研修

令和元年度第1回法人研修では、「夜明け前 呉秀三と無名の精神障害者の100年」DVDを鑑賞しました。100年前の日本において劣悪な環境での私宅監置や人権侵害についてまとめられていました。その後、多くの精神に障がいのある人たちは精神科病院に隔離収容され、場所が変わっただけで人権侵害は続いていました。現代の精神医療、福祉の現場において未だに人権侵害は生じている可能性があります。



呉先生が言われた「人としてみる」は当然の感覚だと思っていましたが、私たちの支援が、何気ない声掛けが、相手の尊厳を傷つけていないか、立ち止まって検証していきたいと思います。(内藤)

## ご寄付のご報告 (令和元年度 ご寄付いただいた順)

健康福祉花見会実行委員会様、新潟県友会、真柄福祉財団、川室優様、その他、タオル、販売用製品、英字新聞等の物品を多数頂戴しました。

令和元年度の寄贈品として、センターこまくさに真柄福祉財団様よりミシンをいただきました。ホームつくし糸魚川に新潟県友会様よりノートパソコンをいただきました。

皆様からのご厚意に、  
こころより感謝申し上げます。



	事業所	分類	苦情内容	対応
令和元年度苦情受付	つくし工房	実習について	実習に行ったが、事前の説明がなかった。また、自分の能力に合った実習だったのか疑問。	実習前に意向を確認し説明した。事前に企業へ訪問同行した経緯を確認。ご本人は即就職に繋がる活動をしたかった意向も確認し、今後の支援にも意向を尊重していくことを説明する。
	ホームつくし糸魚川	職員の言動	新しいGHへ早く行ったらどうかという言葉に困惑し傷ついた。	本人、世話人から聞き取りを行い、サビ管と三者で話す場を設けた。双方の発言には食い違いがあるが、利用者が感じた気持ちを真摯に受け止め、利用者に誤解を生じさせるような職員の言動に気を付けていくこと等の改善策を、本人、家族、後見人、GH管理者、サビ管で説明する場を設けた。

### — 編集後記 —

新型コロナウイルス感染症のために、人間の生活様式を見直さなければならない時代となりました。障がい者の皆様と共に、より安全な地域の暮らしを考えていきましょう。

(福)上越つくしの里医療福祉協会 理事長 川室 優

新型ウイルスが猛威を振るい、世界中が大変な状況に見舞われております。一刻も早く終息に向かうことを祈りつつ、今自分たちに出来ることをしっかりと取り組んでいきましょう。

(法人広報開拓部会 山本、竹ノ内、小林、藤井、原田)